

毎月第3日曜日発行

発行所 (有)イワサキ

ASA座間 TEL046-251-1878

あさのポケット編集室
〒228-0813 相模原市松が枝7-4
TEL/FAX 042-702-0668
E-mail: asapoke-y@xsj.biglobe.ne.jp

2月号 2010年(平成22年)
2月21日(日)No.67



あさポケブログ更新中! <http://www.asapoke.net>

第46回 わたしの自慢

英会話講師
入谷1丁目在住
大和田 和代さん



今回は子ども英会話教室『ECCジュニア』教室を営み、英会話を教える大和田和代さん取材しました。

大和田さんは鳥取県出身。ご両親の転勤で横浜へ。その後、座間市へ越してきました。座間市の感想を「静かで自然もあり、とても住み心地が良い街だ」と思いました。人も温かくて...と話します。大学も英文科卒で、大の英語好きです。キッカケは「中学生の時、先生や親に発音などをすくく褒められました。自信が付き好きになりました」とのこと。学生時代はホームステイでオーストラリアへ行ったこともあるそうです。そして、英会話学校で約6

犯罪ゼロへ5年間の記録まとめる

皆原南第2自治会『防犯パトロール隊』が冊子とDVD制作

「自分たちの安全は自分たちで守ろう」をスローガンに、平成16年に発足した皆原南第2自治会の『防犯パトロール隊』が昨年5周年を迎え、5年間の活動を紹介します。冊子とDVDを制作した。



同自治会防犯パトロール隊世話人会の皆さん

頻繁に発生していた。夜、女性の悲鳴が聞こえ、慌てて外に飛び出したという、同隊代表の綾部さんは、「ビックリしまして...とにかく外に出ました」。度々事件が起るため、綾部さんを中心に有志が立ち上がり『防犯パトロール隊』を組織、半年間毎日夜間のパトロールを続けた。同隊の世話人である綾部さん、横内さん、星さん、矢吹さん、石川さんの5人が活動の中心メンバー。半年後からは1ヵ月14日間ほどパトロールを実施し、現在も続いている。さらに活動は広がりをみせ、水曜日は女性中心のパトロールデー、小学生下校時の見守り活動、『親子防犯パトロール』（昼間）の実施に波及していった。特に親子防犯パトロールは、子供たちに防犯意識を



活動の歩みをまとめた冊子とDVD

学んでもらえるいい機会と、行政や警察、防犯関係団体から注目され、新聞やタウン紙でその活動が報道された。

発足以前、犯罪多発地区だったが、パトロールが大きな抑止力となり犯罪が激減、犯罪件数ゼロの年もある。活動に対する評価は高く、神奈川県警や県防犯協会から『県警本部長 防犯功労賞』『神奈川県安全・安心まちづくり奨励賞』、座間市長から『防犯功労賞』などを受賞。そして、県安心・安全まちづくりパイロット事業に指

定され、補助金90万6千円が交付された。同隊広報担当の横内さんは「寄付金のおかげで印刷物を作るパソコンやプリンターなど揃えられ、皆さんにお配りする印刷物が作れまして大変助かりました」とこやかに話していた。

活動5周年を記念して制作された冊子とDVDは『私たちの防犯活動の歩み』というタイトル。「記念に残したかったこと、次の世代に繋げたいですね。また、他地区の方に防犯パトロールを広げて行きたいです」と、同隊世話人会の皆さんは話した。すでに冊子とDVDは、座間市長や座間警察部長、活動を支援する県議や市議、防犯関係者などに進呈したという。冊子はA4判カラー10ページ、年間100日以上のパトロールの記録や活動内容が、わかりやすく紹介されている。

冊子、DVDをご覧になりたい方、問い合わせは、同隊世話人会代表の綾部さん ☎046(255)2751まで。

ベルマークを集めよう!
ASA座間は、読者の皆さんが集めたベルマークを近隣の学校に届けています。



当社岩崎社長からベルマークを受け取る芥川PTA会長(写真左)

ベルマークを
入谷小に寄贈
朝日新聞とASAは『ベルマーク運動』を応援しています。ASA座間のおもな活動は、①読者からお預かりしたベルマークを近隣の学校に届ける、②あさポケやチラシでベルマーク運動をPRするの2つです。

1月14日、読者からお預かりしたベルマーク約30人分を入谷小学校PTAに届けました。同小では年間3〜4万点のベルマークを集めるそうで、昨年は緊急時や教材としても使える車椅子を2万6千点で購入。今年は運動会用の大玉を購入予定だそうです。同小の赤羽孝秀校長は「一人の力は弱い、みんなで取り組むと大きな力になる」というのが、実感できるのがベルマーク運動です。1点の大切さ、1円の大切さもわかってくるのは...と。「今年は新しい集め方に取り組みと話し合っています。児童、保護者にも意識を高めてもらえるよう考えます」と芥川PTA会長。ASAの岩崎社長がベルマークを寄贈しました。

来年以降も西中の伝統の一つであるマラソン大会が継続されればいいと思います。

子ども記者 32



『中学最後のマラソン大会』
百合川 真人

マラソン大会当日、僕は不安でいっぱいだった。去年一位であったから、周囲からのプレッシャーがすごかった。僕はスタートから粉砕の思いで全力で走った。ゴール前では声援がすごく、あの声援が僕に力を与えてくれたと思う。そして、結果は一位となり満足な結果で終ることができたが、それよりも中学最後のマラソン大会で気持ちよく走れたことが何よりも嬉しかった。またこのような結果で終ることができたのは、決して僕だけの力ではなかったと思う。先生方や地域の人々や応援してくれた後輩たちのおかげだと思う。本当に感謝の気持ちでいっぱい。

子ども記者 32



『中学最後のマラソン大会』
鈴木 優維

一位という結果が残せて、とても光栄です。このような結果を残せたのも先生や保護者の方々、地域の方々の温かい応援や走りやすい環境を作ってくれたおかげだと思っています。そんな応援があったからこそ私は三年連続学年一位が取れたと思っています。そして、夢だった校内一位になり、カップに名前を残すことも昨年叶いました。今年のマラソン大会女子の部では、三年生の一位が陸上部員であることに驚いています。特に一年生の一位が妹であることにはびっくりです。二年生の一位の香取さんも今年で二冠なので、来年も一位を取ってくださることを期待しています。

★★あさポケ座間版では、「自慢シリーズ」、「子ども記者」に登場して頂ける方を募集しています。自薦、他薦問いません。ASA座間スタッフまたは ☎042(702)0668へ。★★